

令和5年度第1回県・市町村行政懇談会

日時：令和5年5月18日（木）午後3時～午後5時

場所：県庁講堂

1 開会（司会：長岡令和新時代創造本部長）

令和5年度第1回行政懇談会を開催させていただきます。本日はお忙しいところ、ご参加ご参集くださり誠にありがとうございます。冒頭、平井知事よりご挨拶させていただきます。

2 あいさつ

（平井知事）

皆様こんにちは。本日は大変お忙しい中、久方ぶりにリアル（参加）を多く頂戴しながら、深澤市長会長様、また宮脇町村会長様をはじめ、市町村長の皆様には一同に会していただき、また伊木市長をはじめ、ネットでのご参加いただきましたこと、本当に感謝を申し上げたいと思います。

考えてみますと、コロナということがありまして、また改めてリアルでやれるということになった、5月8日以降の変化を感じずにはおられないわけであります。

冒頭、この度ご当選なさいました中田村長の再選のお祝いを申し上げたいと思います。私もまた4年間担わせていただくことになりました。皆様のお力をもちまして、市長会町村会それぞれご要望いただきまして、実際にこうしてまた担わせていただくことになり、特に多くの方々のご支援を賜ることになり、本当にありがたいと思いつつながら、やるからには全力を挙げてやることをお誓い申し上げたいと思います。ぜひ皆様のご支援ご協力を賜りながら、新しい期を、私なりに歩ませていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いを申し上げたいと思います。

いよいよ明日から広島におきましてG7が開催をされることになりました。これに向けて総理も広島に入ることになりました。バイデン大統領をはじめとして各国首脳が集まって、これからの世界を議論することになる。私たちも、今日ここに集いながら、これからの未来の鳥取県をつくりあげる、そういう大事な会議ということかと思っております。

世界中が揺れているのはいくつかのことがあるわけであります。一つは民主主義の問題。これが守れるかどうかということがあります。それはウクライナの戦争に象徴されるところでありまして、気をゆるめてしまうと、一気に壊れてしまうかもしれません。ネット社会ということも同じような効果をもたらしている面もあります。そういうようなことの中で、足元でも、このたびも選挙がありましたが、投票率が低下したり、或いは担い手不足ということが言われたり、さらに若い方々中心に、社会そのものに対する関心が薄れているのではないかと。もう一度立て直していくことが必要であり、世界中はそうした議論をまた別の観点でされていますが、私たちは足元から、地方自治や民主主義は、鳥取県、我々のふるさとから興していく、そのような決意をもう一度していかなければいけないのではないかと。このように考えております。

また、人口問題、人口減少はどうしようもなくこの国を覆っています。インドのように、若い方々が増えていく国というのは確かにございますが、中国を含めて多くの国が人口減少局面に入っています。ただこれを克服した国というのも、フランスを初めとして、少子化の克服が図られたところもあります。そんな意味で、この人口問題、少子化対策というのは重要であり、昨日、私自身も、こども未来戦略会議に出席をさせていただきました。十倉会長だとか、或いは芳野会長だとか、或いは学者の皆さんだとか、岸田総理をはじめ、閣僚と一緒に議論をさせていただいたところでもあります。その時、市長会長さんと一緒に強調させていただいたのは、それぞれの地域で子育ての実践例があります。そういうものができるだけの財源、或いは人材の確保等々、国がしっかりとスキームを組むべきだと、こんなことを申し上げました。岸田総理は、こっちを見てうなずいておられました。国の議論

はこれから6月にかけて佳境に入っていくわけではありますが、我々のところでも足元でできることをやっていく必要があるのかもしれない。

子育ての負担が大変だというのは、私たち首長が等しく、いろいろと聞かされているところがございます。そういう中、例えば医療費につきましては、もう回を重ねて議論した、国保のペナルティ問題。これも知事会長として大分主張させていただきましたし、相当裏でも折衝させていただきましたが、ようやく政府がペナルティ廃止を文章化しました。そういう意味で、ある意味つかえ棒が取れたところがあります。もし可能であれば、この小児医療費の問題につきまして、市町村長の皆様と一緒に、次の一歩へと踏み出すことができないかな。今日皆様方にもお諮りを申し上げたいと思っております。無償化につきまして皆様のご協力を得られれば、この6月の県議会に向けまして、県としても、その環境づくりの予算を考えてみたいなども思っているところであります。

また急に降って湧いたのが、買い物の問題でございます。東部中部、JAいなばさんやJA鳥取中央さんが、それぞれトスクやAコープの閉鎖を打ち出されました。西部の4店舗につきましても、これからみんなで考えるというところではあります。夏までの決算状況を見て、検討が進む可能性がございます。

私は、これはJAさんに全ての責任を持たせることは、正直不可能だと思っております。ぎりぎりまで頑張ってきたというのが実情だと思います。むしろ、これから持続可能な買い物という機能を考えていかなければならない。それは我々地域でも力を出し合ってやっていかなければいけないのではないかと思っております。

また交通のこともそうです。JRさんも経営が難しい、そういう中で、廃線に等しい、そうした提案をしかけているというのが、我々地域の受けとめ方であります。

そういう問題であるとか医療の問題等々、暮らしにくさが、中山間地やまちなかでも起き始めているのではないかと。これに対して私たちも次の一歩を踏み出していかなければならないのではないかと思っております。

そうしたことなど喫緊の課題も見えていますし、これが世界で今議論されている様々な課題とも繋がっているかと思えます。ぜひ、市町村長の皆様にも忌憚のないご意見を賜りまして、皆様とともに県を挙げて一緒に未来の鳥取県、つくっていければというふうに思っているわけであります。

アメリカにおいて民主主義が危機にあったとき、エイブラハム・リンカーンという大統領がいました。この方は、「歩みは遅いかもしれないけれども、後ろに進むことはない。」そう言ってこの民主主義を引っ張っていったわけであります。私たちも、私たちの力で地方自治、或いは地域の振興策、こういうものを是非とも後戻りをする事なく、厳しい環境の中にはありますけれども、前に進んでいきたいと思えます。

皆様のお力を賜りますこと、心からお願いを申し上げ、それぞれ市町村のご繁栄ご発展をお祈り申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。今日はありがとうございました。

(司会：長岡令和新時代創造本部長)

続きまして、市長会長であります深澤鳥取市長様、ご挨拶をお願いします。

(深澤 市長会長 (鳥取市長))

皆様こんにちは。

鳥取県の市長会の会長をさせていただいております鳥取市長の深澤でございます。平井知事におかれましては、この度5回目のご当選、誠におめでとうございます。改めまして、お祝いを申し上げます。

日頃より、平井知事始め鳥取県の皆様、また、市町村長の皆様におかれましては、様々な場面でいつも大変お世話になっておりますこと、改めまして感謝申し上げます。次第でございます。

また平井知事におかれましては、数多くのいろんな課題に迅速に対応しておられますことに改めまして敬意を表する次第でございます。

私たち市町村もこのコロナ禍の終息後を見据えた鳥取県の明るい未来を切り開いていくために、共に歩んで参りたいと考えているところでございます。

今日は3点の議題について意見交換をさせていただくということでありまして、久々にこのような機会をいただきましたことに感謝申し上げたいと思います。

今日のこの意見交換会によりまして、この鳥取県のいろんな課題、その取り組みを推し進めていく力となりますことを期待いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

3 意見交換

(司会：長岡令和新時代創造本部長)

意見交換に移ってまいります。まず資料1から3に従いまして各議事に関して県関係部局長より一括してご説明させていただきました後、各市町村長よりご意見を賜れればと思います。資料4として鳥インフルエンザの協力依頼をつけさせていただいております。別途確認いただければと存じます。それでは説明に入らせていただきます。まず議事一つ目の「シン・子育て王国とっとり」宣言につきまして、中西子育て・人財局長よりお願いいたします。

(中西子育て・人財局長) **資料1**

子育て・人財局長の中西です。よろしくお願いいたします。資料1をご覧ください。

3月の中旬から4月の中旬にかけて、少子化対策・子育て支援策に対して、課題や新たな展開等について意見交換の時間を取っていただきました。大変ありがとうございました。その意見交換の状況等を踏まえ、これまでの子育て王国から進化する「シン・子育て王国」へ向けた検討状況について説明したいと思います。

資料1の小児医療費の完全無償化について案を示しています。現在、入院が1日1200円、通院が530円と一部患者負担がありますが、ここを赤い字で書いているように無償化して、その部分については県と市町村が2分の1ずつ負担する。また、開始時期は、案としまして、令和6年の4月としております。本日、市町村のご了解を得ることができるのでありましたら、事務経費やシステム改修経費の市町村補助金を、6月に検討をしたいと考えております。

続きまして、2ページ目になります。保育料についてでございます。平成26年度から、中山間地域市町村の保育料軽減策、これによって第一子からの完全無償化が可能となりました。平成27年9月からは所得制限なしの第3子以降の無償化。平成28年度からは、低所得者世帯に特化し、第一子と同時在園の場合の第二子の無償化を開始いたしました。この保育料の一層の負担軽減につきまして、こちらも各市町村のご意向を踏まえながら、検討を開始させていただきたいと思っております。

次の3ページ目でございます。保育人材の確保策についてです。75年ぶりに見直される職員配置基準のことについて意見を伺っていたところですが、ほとんどの市町村長の方から、そもそも保育士が足りない、採用できないというお話を伺いました。当初予算では、下の丸で書いておりますけれども、現役保育士や潜在保育士、学生等に対する実態調査を実施することとしておりますが、これらに加えまして、赤い四角囲みの中に赤い字で書いております、1、保育施設に就職した潜在保育士等に対する奨励金の支給。2、保育士でなくても行うことができる保育支援者の配置を支援。また保育施設における使用済みおむつの処分を支援。これら3つの補助事業を検討しているところでございます。

4ページ目をお願いします。カップル倍増作戦についてでございます。当初予算で配置しました結婚コンシェルジュ、これが東中西部に3人そろい本格稼働します。縁ナビの再発掘や市町村・企業等の連携・支援体制を構築していきます。加えまして、えんトリーの機能強化として、マッチングシス

テムに性格診断機能を追加すること。また、縁結びナビゲーターの活動強化として、統括リーダーを設置することや、報奨・表彰制度の創設を考えております。また、メタバースを活用した、恋活・婚活イベントの実施や、その他の支援といたしまして、出会いイベント助成上限を拡大し、対象を民間企業にも拡大することや、民間マッチングアプリとの連携などについて検討をしております。

5 ページをお願いいたします。産後ケア事業の充実についてでございます。右の上に表をつけております。これは延べ人数でございますが、令和2年度に全市町村で利用料を無償化しましたが、利用者が大幅に増加しております。今後ますますニーズが拡大すると見込んでおりますので、宿泊型の他に、デイサービス型の施設整備へ補助対象を拡大することや、新たな産後ケア施設の設置について検討を始めたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。また、事業を受託する助産所からは、委託料の単価不足の訴えを伺っております。産後施設の安定的な運営に向けて、各市町村や県助産師会のご意見を伺いながら、単価設定について検討したいと思います。最後に、米印で書いておりますが、冒頭知事のご挨拶にもございました。国に対しては、標準的な委託単価の提示や自治体が独自の取り組みを行う、行う場合の財政支援について引き続き要望していきたいと思っております。

(林教育委員会事務局次長) **資料1**

続きまして6 ページをお願いします。教育委員会次長をしています林といいます。

英語教育の推進につきまして市町村長様にお願いがありまして説明します。小中学校の児童生徒の学力の向上につきましては、各市町村長様の日頃からのご支援及びご協力いただいて進んでいることにつきましてお礼申し上げます。

県の教育委員会としましては、今年度、小中学校の英語教育についてより一層進めていければと考えております。そこで、特に英語におけるコミュニケーション能力、特にその中でも話す力を高められればと考えております。

その上で日常的に英語に触れる機会を増やすとともに、ALTを活用した優良事例の教材などを県で作成し各学校に提供するなど、資料に記載しているような事業について予算化を検討しております。各市町村におかれましても今後、各市町村で配置していただいているALTの皆様の力をより発揮していただくなど、引き続き小中学校における英語の授業改善にご協力をいただければと思っております。また、学力全体の向上につきましては、学力状況調査等の結果を受けまして、昨年と同様に、秋頃、足羽教育長が各市町村長の皆様を訪問させていただいて、状況を説明させていただくとともに、意見交換等もさせていただきたいと考えておりますのでその際はよろしくお願ひできればと思っております。

(盛田地域づくり推進部長) **資料2**

地域づくり推進部長をしております盛田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

資料2について説明させていただきます。1 ページの方をご覧くださいと思います。中山間地域を中心に、かねてからの人口減少により、買い物をはじめ様々な問題といえますか不具合が出始めているところでございます。この度、知事の挨拶にもありましたけども、JAから店舗の廃止だとか、今後の方針が打ち出されたところでございます。右の赤い枠囲みを見てもらえればと思うのですが、5月1日に買物環境確保に係る対策協議会を開催し、市町に主体的に店舗ごとの買物環境確保計画を策定していただき、それについて県の方では計画に基づき、市町村に財政的措置を含めたサポートをするということで合意を得たところでございます。現在、市町と計画の素案について意見交換をしながら、練っているところでございますが、県の支援は、計画に上がってきたものについて、全面的に一定の支援をしようと考えているところでございます。今回は、あくまでトスクAコープに限っているものですが、これをモデルにして地域の買物環境、まちづくり、そういうふうなものの確保、維持につなげていきたいと思っております。

それでは2ページの方をご覧くださいと思います。新たな地域交通体系鳥取モデル構築でございます。これ市町村の皆様には、本当に地域交通、頑張らせていただいていると思うところです。県では、それまでバス中心の交通体系だったものを、令和2年度から地域のニーズに応じて共助交通、タクシー、バスを自由に組み合わせできる支援体制を創設したところです。その結果、全県で様々な交通体系の再編の動きが見られるようになりまして、中段の緑の部分ですが、そのような成果、または、下に例示で示しておりますが、そういう対応が出てきているところです。引き続き、生活に必要な移動の充実に向け支援の拡充を検討し、生活基盤の確保に向けて市町村の皆様と、協力して参りたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

(坂本健康医療局長) **資料2**

次のページをお願いいたします。健康医療局の坂本です。どうぞよろしくお願いいたします。

中山間地域の医療提供体制の維持に向けた医療人材の確保についてです。中山間地域の医療関係者や医療を受ける立場の皆様から、病院勤務医師が高齢になっており今後の医師確保を懸念している。県派遣医師が増え助かっているが、義務派遣の方の定着にならず、将来病院を担う中堅医師の不足を懸念している。複数の市町村が医師を共同で雇用する取り組みへの支援をお願いしたい。診療所の医師も高齢化が進んでおり、将来、身近なところで医療を受けられなくなることを懸念している。今後、在宅医療の需要増を見据え、訪問看護体制の強化も必要。このような意見をいただいております。これらについて市町村や医療界で課題を共有し、例えば市町村が行う医療人材確保への支援や、県域で医療人材を確保する仕組みなど、効率的な医療人材確保や、訪問看護ステーションの規模拡大による機能強化など、関係者と十分話し合いをしながら、連携して対策を進めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

(池田商工労働部長) **資料2**

4ページをお願いいたします。商工労働部長の池田でございます。

県内企業の事業承継対策ということで、県では令和3年、令和4年には商工会連合会に担っていただきまして、全県の後継者不在の調査を行っております。大体57%、中山間地を抱える町村部では63%といったような状況が出ておるところです。こうした後継者不在に対しまして、承継の支援を希望される企業というのが50社程度あるということで、早急に、例えば、商工会と日本政策金融公庫等とマッチングをさせていただきながら、県と一緒に、第三者承継に繋がるようなマッチングを進めたり、または、通常、承継というのはオープンにせずに行うものなのですが、特設ページの中で情報をオープンにするような形で実際にマッチングに繋がる、このような好事例も出てきているところです。事業承継には、親族内承継以外にも第三者承継、それぞれ課題がございます。承継元の価値を高めたり、経営者教育の環境づくりだったり、オープン型のマッチングをもっと拡大したり、そのようなところの取組をしっかりと進めたいと考えております。それで1点だけ、63%の後継者不在の中に、ほぼ4割の事業者の皆さんが自分の代で終わると考えておられます。基本、ビジネススペースに乗らない、黒字廃業といったようなものも、こういったところに含まれていると思いますので、こういった情報につきましては、しっかりと市町村の皆様と情報共有しながら、対策を考えることもできるのかなと思っています。

(盛田地域づくり推進部長) **資料3**

全国的に投票率の低下や地方議員のなり手不足が深刻化し、政治への関心が薄れ若者も選挙離れが進みつつあるという状況です。鳥取県も例外ではなく、先の参議院選挙の合区もありましたが、合区以降、一段と下がり投票率は48.93%で、全国32位という結果でした。その下の知事選挙においても、48.85と50%を切り過去最低となっている状況です。

2 ページ目をご覧くださいと思います。市町村長、市町村議会、議会議員の選挙においても、無投票や、これオレンジ色の部分が最低投票率ですが、その割合が高くなってきているところです。3 ページ目をご覧くださいと思います。投票率低下の課題と対策です。右上の表をご覧くださいと思いますが、投票所の推移です。これは平成8年度がピークでございまして、581 箇所の投票所がありました。令和5年度については359 箇所と、約220 の減です。市町村合併の頃からどんどん減少しているというところだと思います。右の上の方ですが、そういう中で市町村の方でやっただいでいることとしまして、投票所等への移動支援をしていただいています。また無料乗車券の対応もしていただいているところです。その下、また4月の統一地方選挙では、利便性の高いところなどに期日前投票所を設置していただいたり、また北栄町のように巡回式期日前投票所を実施していただくなど、投票しやすい環境づくりに取り組んでいただいているところです。ただ、若年層の投票率、これは特に18歳19歳20代が低い状況でございまして、19歳に至っては21%という状況になっているところです。

次に4ページをご覧ください。地方議員のなり手不足でございまして。左の表は無投票選挙の割合ですが、町村議会では40%、灰色の線です。県議会では33%となっているところです。要因としては、立候補環境、時間的な要因、経済的な要因、身分に関する要因など、様々ございまして。ただ、多様な人材の参画を促進していくためには、選挙制度の改正もそうですが、地方議員の魅力の発信、適切な議員報酬、育児介護の取り扱いなどを改善すべきところはまだまだあるのかなと思います。それと右の方の表ですが、これは他県の先行事例というか先進事例でございまして。参考にさせていただければと思います。

最後に5ページをご覧くださいと思います。まとめとして選挙のあり方についてということでございまして。この投票率低下や無投票増加は民主主義の崩壊の危機であること、または、県民の政治への無関心が続けば、さらなる投票低下、なり手不足が危惧されるということ踏まえまして、県のご提案としまして、投票環境改善・なり手不足解消のための研究会を立ち上げたいと思っています。今年度中に一定の方向性を示したいと考えているところです。研究会では現状課題、要因等分析するとともに、検討例にあるようなことを議論して参りたいと思っています。全国のモデルになるような、投票率の向上、なり手不足の解消、投票環境の改善などの対策を考えていければと考えていますので市町村の皆様にもご協力をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(司会：長岡令和新時代創造本部長)

県当局からの説明は以上でございまして。各市町村長からの意見を賜りたいと存じます。建制順で指名させていただきます。

(深澤鳥取市長)

小児医療費のさらなる軽減、無償化につきましては、他の医療制度、医療助成制度の全体の整理も一緒にやりながら、鳥取県全体として具体的に進めていくべきではないかと考えているところです。本来、これにつきましては、国の方で全国一律の制度を創設して実施すべきではないかと考えますが、この鳥取県からこのようなことが先駆けてできれば、非常にいいのではないかと思います。ペナルティの廃止につきましても、これも長年来、要望してきたところではありますが、先ほど知事の方から「つかえ棒が取れた」というようなお話もいただいたところですが、やはり国もこういったことを、子育て支援の一環としても考えて、実施していくべきではないかと考えております。保育料のさらなる軽減につきましても、これから進めていくべきではないかと考えております。財源論もあるとは思っておりますけれど、先般も、1年間の出生数80万人を切ってしまった、こういった状況を勘案しますと、最優先に考えて取り組んで、具体的なことをやっていくべきではないかと改めて考えております。

産後ケア事業につきましては、産後うつ等の対応ということで、必要な取り組みであると思っております。標準単価の設定等につきましても、国の方から提示をしていただくということが一番いいわけでありまして、具体的なものを設定して運用していくということも必要ではないかと考えております。

買物環境の確保につきましては、これは、この度のJAの各店舗の閉店方針が表明されたことに伴っての議題というところであります。移動販売等の支援も含めた買物環境の維持、確保はもとより、多大な影響を受けておられます、例えば卸売業とか流通生産全体についても考えていかなければならないのではないか、そのような課題ではないかと思っております。それぞれの地域での公共交通の維持確保とあわせて、将来に向けた課題として考えていかなければならないと思っております。

3点目の、この投票率の低下等々であります。投票率の低下、或いは無投票、なり手不足、いずれも大変深刻な問題であると認識をしております。これにつきましては、様々な要因が重なってこのような状況になっているのではないかと考えておりますので、引き続き一つ一つ、投票率のアップ、また、なり手不足につきましては、市議会では出前説明会等々も行っておられまして、市議会の皆さんも危機感を持っておられるのではないかと考えております。引き続き、いろんなことをやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

(伊木米子市長)

小児医療費について、深沢市長とほぼ同じ意見ですが、本市としても、すでにかかなりの負担をしながら、現在の小児医療制度を運営しております。完全無償となりますと、さらに負担が増えるということもありますので、その効果や、それに伴ってどういう少子化対策や子育て支援に繋がっていくのか、しっかりと議論をしていただきたいとは思っています。ただ、県として、やはり子育て王国、足並みをそろえていくということについては、私も賛同いたす部分ですので、きちんと前向きに検討したいと思っております。

保育料の無償化につきましても、さらに大きな負担がありますので、これも効果を見定めながら、しっかり検討させていただければと思います。

保育士の確保についてですが、言われることはごもっともと思いつつも、課題解決の方法論としては、我々の方では保育士の方々の負担感というものもあるのではないかと考えております。つまり、処遇がよくないという意見がある中で、その仕事の責任の割に良くないということでありまして、負担感の部分をどういうふうに解消していくのかということと合わせてやる必要があるのではないかと考えています。婚活支援については、米子市でもいろいろ独自に検討はしてきたのですが、県のえんトリーが非常に成果を出しているということがよくわかっておりますので、連携して一緒にやらせていただければ、より効果を発揮できるのではないかと考えていますので、よろしくお願いしたいと思います。産後ケアの話ですが、ちょうど米子市としても産後ケアハウス1号を成就したところですので、今後その効果や成果、課題などを見極めながら、今後の話し合いを進めていきたいと思っております。

英語教育の推進ですが、全面的に賛同するところです。これから先の鳥取県の教育を考えたときに、一定の特色をしっかりと出していくことは必要であろうと思っております。語学というものは、米子、鳥取県はこの日本海に開けているわけですから、英語、場合によっては中国や韓国語、こうした語学も親しむ程度でも構わないので、特色として出せるのではないかと考えております。全国いろんな教育ありますけれども、これが鳥取県の教育だというものを出せるような取り組みを、我々もしっかり一緒にやらせていただきたいと思っております。ただ一方で、学力向上とかいろんなテーマが教育にはありますので、何をやめるのかということもやっぱり議論しないと。これもやり、さらに積み重ねてこれもやりとなると、教育現場の方の負担も多いのではないかと考えていますので、これからも検討させていただければと思います。

買物支援につきましては、西部におきましては結論が出ていない状況ですので、結論が出た段階で話し合いというふうには思っておりますが、一方で、過去に米子において地場スーパーの閉店という問題がございました。局所的に買物に困難をきたす人達が出ております。この度、平井知事からいただいた助け船にしっかりと私たちも乗りたいと思っております。この度、平井知事からいただいた助け船にしっかりと私たちも乗りたいと思っております。この度、平井知事からいただいた助け船にしっかりと私たちも乗りたいと思っております。この度、平井知事からいただいた助け船にしっかりと私たちも乗りたいと思っております。

企業の事業承継でございます。課題意識は大いに共有するところです。ただ米子市として、課題意識を持っているのですけども、行政職員で企業の非常に深いところに入っていきっていくのは難しいもので、いろいろ話を聞いてみますと、商工会がかなり頑張っているということがよくわかってきております。必要なリソースをある程度、商工会の頑張りに追加していくとか、そういうことも効率的ではないかと思っております。もちろん、テーマとしての課題意識は十分持っておりますので、しっかりと取り組ませていただきたいと思います。

最後に、県民の政治参加への促進についてです。米子市として必要と思われる主権者教育などを展開しておりますが、成果に結びついていないということは認識しています。それ以上の十分なアイデアを持っておりませんが、原因をよく分析しながら、その原因に対して的確に政策を打っていくよう、皆様と一緒に話し合いをしていきたいと思っております。

(広田倉吉市長)

小児医療費の関係については、深澤市長、伊木市長兩名のご回答の通りで、意見交換したときには、倉吉市の実態の負担でいくと6歳ぐらいまでが半分ぐらいを占めたものですから、そこにまずは焦点を当てていくのも効果的かというようなお話もさせていただきましたが、経済負担の面でも大きい鳥取市さん、米子市さんが行きますと言われれば、私もついて行かせていただきたいと思いますので、一緒になって取り組めたらと思います。

保育士の人材確保の問題については、どちらの方も一緒だと思います。私どもも、大変苦慮しているところで、県の保育士保育所支援センター、ハローワークと連携をしながら取り組んでいるところですが、なかなかうまくいっていないところでございまして、センターの方の相談状況、実績、効果等もお聞かせ願いながら、人材確保に努めていきたいと思っております。

産後ケア事業につきましては、中部は1市4町で一緒になって委託料を設定し取り組んでいるところです。施設自体は1施設しかないのですが、倉吉市の事例を言いますと、利用件数自体は増えているのですが、実利用人員としては横ばい状況なので、今のところは、何とか保育士、保健師等で対応ができているところでございます。これから無償化になってくれば一層のニーズも高まってくると思うので、そういった状況に応じた対応をとっていききたいと思っております。

英語教育の推進については、保護者の皆さんも英語能力の向上というのは望んでおられると思いますので教育委員会にしっかりとらせていきたいと思っております。

買物環境については、先だって買物環境確保計画を現状の段階で出させていただいて、県の方からご助言もいただきながら取り組んでいるところで、喫緊の課題と考えているところです。関金の地域振興協議会で、地元の方々が自分ごととしてとらえていただいているので、私どももそれにタイアップをして取組を今後進めていこうと、買物代行だったり、買物ツアーだったり、そういったことを検討しております。

6月補正に、その具体的な金額がまだあがれる状況ではないですが、これからしっかりと検討しながら、計画に肉付けをしていきたいと思っておりますので、今後とも県のご協力ご支援をいただければと思います。私どもも地元の企業との事業承継について検討を重ねているところですので、東部地域なりの検討結果について横展開もさせていただいたりし、引き続き県にはご支援いただければと思います。どうぞよろしく申し上げます。

事業承継については、直接市の方に先だつて来られたりして、案件が多いと思っております。商工会議所とも連携しながら、大きな課題だと思っておりますので、引き続きご協力ご支援いただけたらと思います。

県民の政治参加、選挙のあり方等についてですが、私どもは県と連携して市内の高校等に出前講座をしたり、いろんなことをしているところですが、なかなか、成果が上がってこないところ。タクシーで選挙場所に連れていってあげることも展開していますが、どんどん増えるかという減っていく方で、効果があらわれていないものですから、県の方でこのたび研究会を設置して、課題等を発見してそれに対応していこうということであれば、ぜひとも連携して取り組みたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(伊達境港市長)

「シン・子育て王国とっとり」に絞って意見を述べたいと思っております。小児医療の完全無償化については、以前から市民から要望もあり、議員から質問等もございました。完全無償化に向かっているのはいいことであると思っておりますし、ただ、さらなる負担が増える中で、養育医療、育成医療といった公費負担があるものを使っていないという医療機関も実態としてあります。まずは公的医療を先に使ってそれから特別医療というふうに、きちんと医療機関の方に徹底をしていただきたいというのが要望であります。

それと境港は、紙おむつは収集して市内にあるウエストバイオマスで炭化処理をするということで、処分費、保育園だけで言えば年間45万ぐらいのものです。何か考えていただきたい、助成なども考えていただきたい。

県の子育て応援市町村交付金があります。非常に使いやすくて、限度額いっぱい利用させていただいていますが、それぞれ市町村で単独事業に充てておられると思っておりますけれど、とても使いやすいが所以に、上限が決まっています。境港は上限1000万で、半分ですから500万充てているわけです。それだけでは単独事業が全部賄えない、ほんの一部にしか当たらないというようなところもあって、考えていただきたい。

えんトリーの説明の中で、使いやすいようにというところでアプリ化も検討いただけないかと思っております。民間のマッチングアプリとの連携と中西局長が言われました。どんなイメージでおられるのかなと考えていたのですが、例えば、東京の人が民間マッチングアプリに入っていて鳥取に移住してみようかなという時に、えんトリーにエントリーされている女性を見て、それを県の方でマッチングできるとか、そういうことになればと思っています。具体的に民間のマッチングアプリと十分検討いただきたいなと思っております。産後ケアでは、委託単価の増額に関して、県内もしくは西部地区の市町村で統一単価の設定がお願いできないか。

境港は小中学校9校で、6人のALTを配置しています。県内で高い方だと思いますが、子供たちのためにネイティブスピーカーを配置するのですが、民間委託でのALTには財源措置がないということで、県とともに国に要望しておりますけれど、しっかりその後押しもお願いしたいと思っております。

(長戸岩美町長)

小児医療の部分ですが、県の方で財政措置をいただけるのであれば、ぜひ実施をしていただきたいという思いです。岩美では、令和5年からひとり親の部分に対しては町独自で医療費の無償化に取り組んでいます。国のこういった政策が出てくるか見たいということで、小児医療については先に送った経過がありますので、県の方で制度化をいただけるということであれば、ぜひともお願いしたいと考えております。

保育士の関係ですが、現在岩美町では1歳児と3歳児には別立てで加配をしております。国の基準よりも手厚く保育士は充てていますが、ご提案があったように保育士の人材確保という部分が追いついてこないということがあります。毎年職員募集をしても、なかなか応募者はないという状況もあり

ますので、今回ご提案があった人材確保についても、全面的にご支援をお願いできたらという思いです。産後ケアの部分については、安全管理基準や設備基準について、全県で統一された方がいいのかなという思いがあります。単価の問題も伊達市長の方も言われましたけども、東部の方も1市4町で単価設定をしているということがあります。全県で単価を合わせるということまではいいのかなと思いますが、少なくとも基準の部分については、県で統一したものを作成いただければありがたいと思っております。

交付金のところで、子育てメニューが毎年充実していく中で、補助金申請が1件ずつ出ていくものもあります。できれば子育てに関する部分をまとめる一括交付金みたいな形で、過不足を翌年精算いただくということも構わないと思っておりますので、枠の拡大とあわせて、メニューのところをまとめていただいて、事務処理の負担を軽減いただくことができればありがたいと思っております。

提案にはなかったですが、スクールカウンセラーの配置を、現状コロナが影響しているのかなというところで、不登校気味の子供に対するカウンセリングは数が増えてきて、薄くなっているということ現場の方からも聞いていますので、カウンセラーの確保についても一定のご配慮いただけたらというのが幸いです。

買物環境については5月31日までを期限に、町民の皆さんから意見をいただいております。現在40件ぐらいの意見をいただいております、何とか町としても現行の買物の水準は維持したい。例えば、町で走っている町営バスをマーケット経由し、すべての買物のところを回るような仕組み、そういったこともできないかということも検討しております。町民の皆さんの意見を集約する中で、買物計画を作って参りたいと思っておりますので、引き続きのご支援をお願いしたい。

医療人材の確保については、薬剤師の確保に苦慮をしています。卒業までに6年かかるということや、国家試験の合格率が非常に低いということもあって、民間のドラッグストアに人材が流れていくという状況が見取れます。ここの部分をうちの病院でいうと、民間の初任給に合うだけの手当を積み増して、少なくともスタートラインでは負けないような形でやる方法も考えたらどうだということも言っております。県としても奨学金制度等を実施していただいているわけですが、引き続き取り組んでいただけたらということです。

英語教育の充実につきましては、縷々市長さん方が言われましたけども、私も同様でございます。鳥取県として語学教育の部分に力を上げていくという方針については、全面的に賛成でございますので、よろしく願いいたします。

(上川若桜町長)

こども子育ての支援の関係です。少子化対策をする上で子育て世代の負担軽減というのは非常に重要なことだと思いますので、小児医療費の完全無償化につきましては、町としても、前向きに取り組んでいきたいと思っております。

保育士の人材育成確保の強化ですが、現場としては保育士が不足している、募集を常時かけていても、なかなか手が挙がってこないというのが現状です。配置基準を年度途中でクリアできるかどうか、非常にヒヤヒヤしながら何とかやりくりをしているのですが、どうしても瞬間風速的に足りなくなる恐れがございます、例えば若桜町の場合、昨年出生数が14人ということで、数は持ち直してよかったのですが、町営のこども園1園ですが、希望を聞きますと、0歳児保育を受けたいという方が7名おられまして、配置基準の3対1に照らしますと、7人目が入った時点でもう1人入れて3人体制にしなきゃいけないというようなことがありまして、まだその3人目のめどが立っていないというような状況がございます。常時でなくても、数ヶ月間の間だけでも1人は保育士に入ってもらえるような、保育士の人材バンク的な制度があれば助かると思っております。

出会い婚活に関する支援ということですが、これまで町としましてもえんトリの登録料の補助や婚活イベントの開催支援などをやってきたところですが、なかなか目立った成果に繋がっていない。

やはりマンパワーといえますか、昔はいろいろおせっかい焼いていただいたおばさんおじさんいらっしゃいましたけれども、そういう方の力をいただいて、きめの細かい支援というのをやったほうがいい、組み合わせてやったほうがいいのではないかと考えておまして、今年度、縁結び世話人というような制度を予算化したところです。県の縁結びナビゲーターや結婚支援コンシェルジュとも連携しながら、よりきめ細かい支援体制を作っていけたらと考えております。

買物の関係ですが、若桜店につきましては東宝企業ということで今後協議が本格化していくわけです。東宝企業の弁護士から、持続可能な経営をするためには自治体の支援が不可欠だ、必要だということをおっしゃったので、今後、町としてどの程度の支援がお示しできるのかがポイントになってくると思っております。店舗の維持とあわせて、地元で買い物していただく、地元のスーパーを使っていただけるような環境づくりを検討していただきたいと先方からも言われているところでございます。その辺りを買物環境確保計画の中でしっかり盛り込んで、県の方と協議をしながら、ご支援いただけたらと考えております。移動販売につきましては、東宝企業は移動販売をしないということを明確に表明されておりますので、地元の方で体制作らなければいけないということで、今、地元の商工会と連携をして、検討を進めているところですが、移動販売車をどういうふうに調達するかとか、或いは商品の仕入れをどういうふうにするかとか、そのあたりが今後課題となって参りますので、県の方ともご相談をしながら進めていきたいと思っております。

それとあわせて、今年度町のIP告知端末、テレビ電話のようなシステムですが、これを更新しますので、そこでタッチパネルで各家庭から商品を注文して、それをスーパーの方で受けて配送するような仕組みというものも検討できないかと考えているところですが、そういった場合に、物流商品の配送ですとか、各町営バスを使った貨客混載の仕組みのような、そういったことも併せて検討していけたらと思っております。

県民の政治参加ですが、議員のなり手不足や投票率の低下、若桜町も非常に大きな課題として、危機意識を持っているところです。議員のなり手不足につきましては、町会議員の定数が10名でございますけれども、前々回は選挙がありましたが、途中で1名辞められて9名、定員割れになっておりますし、前回も当日何とか1人立候補して定数割れは防いだのですが、そんな状況になっておまして、議会の方も危機意識を持って、特別委員会を昨年度から開いて、定数問題、それから報酬の問題を絡めて検討を進めているところです。投票率の低下につきましても、先ほど説明がありましたように投票所の統合というのが拍車をかけておまして、町としても送迎バスとか、巡回投票とかそういったことも考えていく必要があると思っております。いずれにしても、抜本的に政治に関心を持っていただくようなことを考えていくことが大事と思っております。この度、県の方で研究会を設置していただくということは、私も大変賛成でございまして、どういった方法があるのかとか、いろんな課題の整理を連携しながら検討できたらと思っております。

(矢部智頭副町長)

本日、県の方から提案していただきました。市町村の要望に対して、素早く検討いただいた結果だと思っております。お礼を申し上げたいと思っておりますとともに、すべての本日提案いただいた事項につきましては、前向きに取り組んでいきたいと考えております。その中で何点か個別の事業のことについて述べたいと思っております。

小児医療の無償化についてですが、こちらは異議なしと考えておりますので取り組んでいただきたいと思っておりますが、実施に際しましては現在でも行われているように、現物給付ということをお客さんの利便性確保も含め、ぜひお願いしたいと考えているところでございます。

それから英語教育の面です。通常でも、ALTを受け入れてやっているところですが、近年、いろいろな事情で、1年で交代される、帰国されるALTが増えてきています。採用、選考にあたってもうちょっと厳格な運営をお願いしたいと思うとともに、小さな自治体では受け入れ、帰国の手続きが

なかなか煩雑ということで、業務が忙殺されるということもございます。できましたら市町村の枠を超えて、これらの事務手続きを支援いただくような仕組みを検討いただけたらと考えているところです。

次に買物維持に向けてでございますが、本町でも対象となるスーパーがございまして、買物環境整備計画を立てているところです。しかしながら、引き続き企業も、まだいろんな要望内容も検討されているところですので、これの見直しについて、柔軟な対応を県の方でお願いできたらと考えておりますので、その点はよろしくお願ひしたい。

次に新たな地域交通体系のモデル構築ですが、資料に智頭町の取り組みを掲載していただいておりますので、説明をさせていただけたらと考えております。この4月から導入したAIオンデマンドタクシーによる新たな交通システムですが、住民が自らの自家用車を利用して、自らドライバーとなつて、AIを活用した配車システムより運行するシステムです。運行に際しては、町民の中にも心配がございましたが、4月開始後は大きなトラブルもなく、概ね順調に運用できております。4月の平均乗車人数は平日で70人程度、最大で89人ございました。5月に入り、だんだん制度も浸透し、最大104人となるなど、順調に利用が増えているところです。利用目的では、智頭病院への通院が一番多く、中には通勤通学等にも利用されておりますし、町内の商店への買い物を目的とした利用も増えてきております。しかしながら、サービスの維持、拡充には住民ドライバーの確保が必須であり、現在、19人のドライバーでシフトを組んで、回しているような状況でございます。この関係でどうしても予約待ちが発生している時間帯も出てきております。ドライバー確保のネックになっていた第一の理由が自家用車利用であると聞いておりますので、将来的には、障がい者の利用も踏まえたような車両を購入しまして、貸与ということも検討が必要ではないかと考えているところです。予約については、先ほど若桜町長も言われたような光回線IP告知端末を本町も整備しておりますので、こちらでの乗車予約を原則としておりますが、どうしても高齢者を中心に電話での予約も多くあります。そんな中でオペレーションセンターを担当課内に設けておりますが、電話予約に忙殺されるような時間帯も出てきますので、別施設でのオペレーションセンターの整備と、配車オペレーターの増員も検討しているところです。県にこれへの助成についてお願ひをしたところ、内示をいただいたと言うふうに聞いておりますので、まずはお礼を申し上げたいと思ひますし、将来的には購入を検討しております自動車への経費助成を検討いただければと考えております。

次に医療体制の維持についてです。資料にあるように、医療従事者、特に医師の確保が長年にわたつて厳しい状況、中堅幹部医師がなかなか育たないというような状況が続いており、特に智頭病院にあっては、一昨年から医師が不在というような時期も続いておりました。昨年10月、県の力添えのもとに、鳥取市立病院から出向というような形で、現員以上の就任をいただいたところですが、期限付での出向でありますので、満期終了後の院長を含めた医師の確保が緊急の課題となっております。こちらの資料に載っておりますような支援であるとか、サポート体制をぜひご検討いただくとともに、医師確保に向けて、新たなステーションであるとか、そのようなことのご検討をお願ひさせていただきたいと考えております。

(吉田八頭町長)

最初に子育て関係を申し上げたいと思ひます。最初に特別医療の関係でございますが、うちの町におきましても以前無償化を検討した経過がございます。そういった中で当時大掛かりなシステムの改修が必要だということがありまして、償還払いの対応しかできないというお話でしたので、今回こういったお話をいただき町としてもうれしく思っているところです。深澤市長が言われましたように全国一斉が望ましいと思ひますが、それこそ全県で一斉スタートしていただけたらと思ひます。

保育の人材確保の関係であります。どの自治体も保育士不足ということで同様の課題を抱えていると思ひます。潜在保育士の掘り起こしは特に大切だと思ひますし、ぜひ人材確保を一緒になって考

えていただけたらと思います。保育支援者ですとかおむつの処分につきましては、本当に大変ありがたいことだと思います。

次に婚活のマッチングアプリの関係でございます。実際の結婚対象年齢の方々の意見をしっかり聞く必要があるのではないかと考えておりますし、説明ありましたようにえんتریの機能強化は必要であると思っております。産後ケアの関係ですが、利用者からは好評だと伺っているところであります。その面でも受け皿作りが大切だと思います。今のところ施設が比較的少ないのではないかと考えているところです。東部の1市4町で、圏域の、主に鳥取市になるのですが、事業で委託しているという状況であり、同様の内容で対応をお願いできたらと思います。

それから英語教育の関係ですが、語学教育のアップというのは非常に大切だと思いますので今後もぜひお願いしたいと思います。

買物の関係ですが、うちの町ではトスク丹比店は東宝企業で事業継続というお話をいただいておりますし、船岡店につきましては、地域での利活用の方法を模索しているというところですが、県からは、交付金として幅広くに財政支援をいただけるという趣旨のお話を伺っているところですが、事業継承をされます店舗の改修費用等の初期投資は別といたしまして、継続的な運営支援は難しいとお話を伺っている中で、地域での活用を考えた場合に、持続性という面があるかと思っております。そういった面ではソフトの支援も必要になってくるのではないかと考えておりますので、ぜひ検討されて幅広くに支援をいただけたら非常にありがたいです。

医療の人材確保です。うちの町も医師の方の高齢化が進んで参りました。医師確保につきましては大きな課題だと思っております。町民の皆さんも非常に心配しておられるという趣もございます。そういった面ではぜひこちらも一緒になって考えていただけたらと思います。

それから最後に選挙の関係でございます。1点だけ申し上げますと、主権者教育の項目がございました。うちの町には八頭高があるわけですが、衆議院選挙を題材に選挙年齢が、18歳となった生徒の皆さんの協力をいただいて、県選管と実施したというところですが、昨年のアンケートの結果、事業を通して政治や選挙に対する関心が高まったと答えた生徒が9割あったということですし、選挙に行こうという気持ちが強くなったという生徒も9割あったということです。そういった面から、政策課題や選挙の争点を取り上げるのは難しいと思っておりますが、身近な問題について考え計画実行することが政治への関心に繋がるのではないかと考えております。着実に主権者教育というのは、効果があったと考えています。

(松浦三朝町長)

小児医療費の無償化についてですが、本町の場合、平成26年から現行の制度で取り組んできています。本町にとっても取り組むべき課題の一つと置いておりましたので、県の制度が運用された時には、参加をさせていただきたい。

次に買物支援ですが、地域住民の皆さんのニーズ調査をすることとしています。本町の対象となっている、2箇所の小規模な施設ですが、地域の皆さんが集う場所でもありますので、買物を含めて幅広い活用策を考える必要があると思っております。他の移動販売だとか生協だとか、いろんな形の支援も含めながら、確保計画の作成に向けて事務を進めております。

それから、もう1点は医療提供の関係ですが、本町で医師会が三朝温泉病院を運営しておられて、その中に岡山大学の寄付講座を設けていただいて6年目でございます。連休明けですが、来年度から主として務めていた講座の先生が岡山に帰られるという話もあって、何とか寄付講座を継続させたいという思いがございます。それで、講座の一つのテーマとして、高齢者医療と地域医療、そういった形を三朝の中で、中部の中でフィールドとして活用していただくような、そういった講座の提案をこれから岡山大学に向けてやっていく必要があると思っております。岡大と県と三朝町での協議会の中で、議題させていただいたらと思っております。

(宮脇湯梨浜町長)

小児医療費の無償化と、保育料の無償化についてはいずれも賛成いたします。ただ、私は団塊の世代の一番お尻の方で生まれた人間でございまして、昔の感じからすると、病気になったり怪我をせんように、お前が入院するだけでなくお金もかかるだけな、というようなそういう教育を受けた世代なので医療費の全額無償化はちょっと気になりますけども、少子化という国の現状を見ますと、諸手を挙げて賛成させていただきます。

保育人材確保ですが、わが町でも相当不足しております。年中募集しているような形でやっております。今年も不足する見込みだったので、県外の業者が入ってやりたいということで、派遣も検討し、10人ほどお願いしたいということで、保育士もコロナで痛んでいますし元気付けてもらって本当のあり方を追求してやり直そうと思っておりましたが、そうもいかず、それ以前に退職する保育士について、定年退職に伴う再任用でのことも、普通の再任用職員と違う形での給与体系を設けて、頼んだのですが、コロナで疲れ切っていてというようなこともあって再任用には至らず、本日ご提案いただいたようなことが実現されて、チャンスを作ったり、或いは解決の糸口になればと大いに期待しているところです。

カップリングのことにつきましては13人の昔のおせっかいおばさんみたいな役割の人を置いて、年に1回集まって会議をしています。中身を詰めたり情報交換したり、その内容が不足していたということを感じています。今回の中には、自分1人でできるような要素も含まれておりますし、非常にありがたい取り組みだと思っております。県にもよく情報提供いただきながら、頑張ったいと思っております。

産後ケアにつきましては、同様に増えております。宿泊型のものでも、令和3年度が18名であったものが、4年度は44名、アウトリーチ型でも4名であったものが11名と、相当数が増えております。委託料の単価につきましては、助産師の方から議会を通じて安すぎるというようなご意見をいただいております。開業医の方からは聞いておりませんが、例えば放課後デイサービスとか、或いは特別支援学級の子供とか、医療的ケア児のこととか、実は当初の制度設計した数よりも相当多い数が入られて何倍にもなっているということもあります。令和4年度から産後ケアの町要綱を改訂し、受入基準を緩和したわけですが、昼と夜の分と同じ人が両方受けられたりとか運用の面で検討すべきことがあるのではないかと。そうでないと、相当増えていくかなということ警戒心を持っています。

英語につきましても賛成です。今日の新聞に英検の三級、中学卒業、鳥取県必ずしもよくなかったと思っております。泊小学校という小さな小学校がございまして、そこで、格差があります。子供がどんどん減っている。羽合小学校の子供が泊小学校に通えるようにしたのですが、当時の教育委員長が英語教育をしっかりやって特色出してやったらどうだ、まさに知事のおっしゃったことを提案されましたが、地域ごとの格差、不平等とかのことで、そこまで行けませんでしたが、英会話教室は積極的に進めていただきたいと考えております。

買物支援も湯梨浜の場合もございまして、地方創生で建物を建て、まちづくり会社を作ってやって、物販の方は黒字化したのですが、飲食の部分が難儀しているの、福祉系のみんなの食堂もやっていただく形で黒字化いたしています。そのようなこともあります泊地域が不足しております。ぜひこういう取り組みもお願いしたいと思っております。

医師の確保策等につきましては、現状としては十分とは言えませんが、充足していると思っております。10年先を考えると大変な状況になると思っております。早めの準備をお願いしたいと思っております。

選挙につきましても、個人で取り組めることもこのたび提案されていますし、ぶっちゃけた話、首長なんてどんな役に立つんだ、どんなことができるんだとか、議員の方も同じような考え方で、それ

が若い人たちには伝えられるような、知事の著書「小さくても勝てる」を読んでいただいたりして、考えるチャンスを提供するのも一法かなと思っています。

(田邊琴浦副町長)

小児医療費の助成につきまして、町でも実施を以前検討したのですが、単町でのスキームの確立が困難だったところで断念していました。今回、県の支援制度が実現したらぜひ乗らせていただければと考えております。

保育士の確保ですが、お示ししていただいたスキームだと即効性はあるかと思うのですが、現場、小さなところは特に、微妙な人間関係もあり、今年の人と去年の人が待遇が違ったりすると苦しいところも生じるのかなと思っています。できれば待遇改善ですとか、引き続き派遣の活用に対するご支援があれば、町村としては使いやすいかと思っています。

買物環境につきましては、資金や技術で解決できることも多々ありますので、引き続きご支援をいただければと思っています。そうでない部分、多少不便でも中山間地に住みたい方々の安心や生活の保障という意味で、今回お示ししていただいておりますが要介護・要支援者認定を受けた方々に対する訪問看護の体制、今琴浦町内に事業者がございませんので近隣の町村の事業所を使わせていただいているのですが、今年度中に1ヶ所できる見込みはあるのですが、それでも将来を考えるとやはり厳しいのが実情です。ぜひこの辺り、資料にいただいているような支援策、町も一緒に取り組ませていただければと思っています。

政治参画ですけれども、テレビ、新聞を見ないような世代にどうやって届けてどう認識してもらうかが課題と考えております。執行部の方ではSNSを頻繁に使っておりますけれども、議会事務局町村単位では、なかなかそこまで手が回らない事務局が実際のところかと思えます。全県的なところでご支援いただければ非常にありがたいと思っています。

(手嶋北栄町長)

小児の医療の無償化につきましては、皆さんと若干意見が違いますが、私自身があんまり無償化という言葉が好きではないのもあるのですが、財源的に本当に持続可能なことになるのかが心配です。それと、コンビニ受診というのがあるのですが、そういうところに行ってしまうと、今でさえ医療体制が確保できるのか。例えば緊急の場面についても、どんどん受診されるということになれば、医師体制も大変というところがありますので、そこを一緒に考えながらやらないとなかなか難しいという意見です。

保育士の人材確保についてですが、北栄町の場合は、使用済みのおむつの処分の支援については町単独で実施しておりますので、財源があればありがたい。

買物支援につきましては、今段階ではまだ議会の方とも話はしていませんが、例えば進出になれば、初期の投資も検討してもいいのかなというところも考えています。なかなか次のところがないということになれば、町内で1回300円でタクシーで行けるということをやっていますので、それを拡大していくとか、その拡大については、例えば県の方から、財政的な支援もお願いできたらと思っています。

医療の確保についてはすでに基金を作って、新しいお医者さんに来ていただくような考えを持っています。ただありません。なかなか難しい。金額が少ないかどうかわかりませんがなかなか難しいというところで、これも県と一緒に、助成制度を拡大できれば、あるのかなという思いがございます。

中小企業の支援については、4月に町独自で、複業人材活用支援制度を商工会と連携で作りました。地域の課題、或いは事業承継のことについて、ワークデザインラボというところに入っていて、連携しながら取り組みを進めているところです。

政治の関係ですが、北栄町も20あった投票所を12にしています。この関係で、減ったところの投票所にどうやって支援をしていくかということで、巡回で期日前に投票所を作ってやっていくということが、多分いいことになっているのだらうと思います。当日についても送迎バスでなるべく投票所に行く体制を作っているということです。

(中田日吉津村長)

小児医療費の無償化の関係ですが、少子化対策ということに関しましては、国全体で大きなパイのもとでやっていくことが大切かと思っています。その上で、この度県の方でリーダーシップをとっていただいて、鳥取県として向かっていこうという方向性を出していただいたことは非常にありがたいと思っております。ぜひ一緒にやらせていただけたらなと考えています。また、システム改修も出てくる話だと思いますので、こちらに支援がいただけるというのも、ぜひ使わせていただきたいと考えております。国要望については、全国一律の制度の創設ができるように継続して要望していくことが必要だらうと思います。

保育料の無償化につきましても、ぜひ検討を進めていただければと思います。一緒に検討させていただきます。

えんトリイの関係ですが、こちらにつきましては、民間のマッチングアプリ等との連携を図っていただくなど、出会いの機会を広げていただくということは非常にありがたい。一方で市町村、村としましては、地域の仲人的な方を担ってもらうような取り組みを考えていけたらと思うところです。

英語教育の関係ですが、日吉津村で1名のALT雇っているところで、この度、日吉津村立の保育所を認定こども園にしたところであり、それに先立って、ALTが保育所に入って年長児と英語に親しむようなことを始めたところです。月に2回程度できればいいということで継続的にやっているところであり、成果が出るのは先になるかもしれませんが、継続していきたいと考えております。

投票率の低下、議員なり手不足ということではいろいろな原因があって今の現状になっていると思いますので、まずはどういったところに課題があるのかを研究してみるというのは必要だと思っておりますので、ぜひ進めていただければと思います。

(竹口大山町長)

小児医療費の無償化についてということで、現行でもかなり負担が低い中で、これを無償化して効果があるのかとかいうようなお話もあったと思います。効果も大事だと思います、EBPMみたいなことが言われて、それも大事だと思うのですが、それよりも鳥取県は子育てに関して無償化だとか、負担を限りなくゼロにしていくんだという理念も大事だと思います。大山町でも給食費を小中学校2分の1補助して、それから無償化する時に、その差は何だという議論があったのですが、そこはやっぱり理念だと思います。自治体として、行政として、その地域の子供たちは地域で育てるというような理念をしっかり打ち出せるかどうかだと思いますので、確かに効果も大事だと思いますが、私は無償化は賛成だという意見です。

保育料の無償化も大山町も県の制度を使いながらしっかり進めていきたいと思っておりますが、国が3歳以上児無償化してから出てきた課題としては、副食費が無償化の対象になっていないということで、県の中山間地域の無償化モデルの対象経費にも副食費が入っていなかったと思いますが、そういうところも後押ししていただいて、無償化につなげられるような制度にいただければと思っております。

英語教育ですが、大山町ではALTを今年度から充実させ、小中学校7校ありますが、今年度から全校各校1名ずつ配置を実現しております。さらにはGIGAスクールで整備したタブレットも活用しながら、生徒児童1人に対して1人のネイティブスピーカーをつけて、オンラインで会話をするということを昨年度からやっております。かなり効果があると思っていて、子供たちも逃げる場がない、今までの1対20だとしゃべらんでもいいかみたいな子供も多かったのですが、20分なら20分逃げ

られませんから何らかしやべるようになってくる。こういうものを鳥取県の特色として広めていただくように、財政的な支援もしていただきながら、他の市町村にも広がるといいなと思っているところです。

買物支援に関しては、前回の買物関係の会議で概ね話をさせていただきましたが、引き続きスーパーが空白地になるようなところにはスーパーの誘致もしながら、一方で人口減少する中で小売り業をどうやって守るかといったら、観光誘客でお客さんに入ってきてもらったものを小売りの消費にもつなげていけないかということを考えています。例えば、キャンプ場を整備して、キャンプで宿泊していただければ、地元の小売業で何か買っていただく機会が増えるのではないかとか、そのような発想から、観光誘客を地元の生活基盤の小売業の消費をしっかりと確保していくような、そういう策につなげられないかということを考えております。また公共交通を利用して、買物難民が出ないようにということで考えておまして、車の免許を返納されたり、免許を持っておられない方が、元気で歩いて自転車も乗れるけど、スーパーまでが10キロ以上あるようなところが課題だと思います。大山町としては、自転車に乗れて歩いて元気な方は、公共交通と自転車の組み合わせで買物支援ができないかということも考えています。先般和歌山にJRのサイクルトレインの視察に行ってきたのですが、そこで、近所のおばちゃんがママチャリを乗せて、買物に行って友達の家に行くんです、免許を返したので今までは知り合いに載せてもらって行っていたが、サイクルトレインができてから気兼ねなく行けるようになったと喜んでおられて、やっぱりそういうことで、地域の公共交通の存続の問題とあわせて買物環境の確保をやっていかないといけないと思っています。

地方自治の危機克服へということで、いろいろ課題があると思いますが、特に今、郡部の方で感じているのは県議会の定数の問題で、市町村から1人も県議会議員が出てないというようなところは、投票率が伸びていかないのではないかと考えています。直近の選挙の結果を見ましても、5000票以上獲得されても落選されている候補があれば、3000票台でも当選されている方があって、やっぱり市部と郡部の差もあると思いますし、特に西伯郡であれば、3町1村あって、2人しか出ませんから、実質的に二つの自治体から県議会には出てこない。全国では、都道府県が単位で参議院議員を出さないといけないという議論があると思いますが、県においては市町村というのは最小単位として、文化も違えば歴史も違うわけですから、そこから県政に送り出せるような環境ができると、もっと投票率も上がるのではないかと考えています。若年層の投票率に関しては、マイナンバーカードも普及してきたので、国の方にオンラインで投票できるように、どんどん要望していただいたら、若い人も投票に気軽に行けるのではないかと考えているところです。

(陶山南部町長)

資料1に関しまして子育て王国鳥取として大胆な戦略があることに敬意を表したいと思います。小児医療の無償化、それから保育の無償化等も原則は賛成です。ただ小児医療の無償化したときに、医療に与えるダメージが非常に心配されます。南部町では一時、病児保育を無償化したことがあります。その時に多くの町民の皆さんが、米子市等の施設も利用して、大変ご迷惑をかけたということもございました。無償化をするにあたっては、住民の皆さんと適正な利用についてのコンセンサスを十分とるといふことが必要だろうと思っています。

婚活支援について、今年から南部町でもえんトリーを使おうと思っています。やはり行政が中心になっていくという安心感というものは絶大で、私のご近所でもえんトリーを利用していい縁に恵まれたと喜んでおられる方がいます。ぜひ進めていただきたいと思っています。

英語教育については全く賛成です。境港市長が言われたように、民間委託についてもぜひ補助対象にしていただきたいと思っています。JETが悪いというわけではないですが、現場の中で負担感があるということも事実です。

資料2について申し上げます。南部町では、公共交通を乗りましょうというPRのために各地区を回っています。今日も午前中1時間ほど地域の皆さんと話をしてきました。その中で、60代70代80代前半の人たちは、乗れない、乗ったこともないといったことが一番の重要な問題だろうと思っています。南部町では、公共交通はバスしかありませんから、バスの乗り方さえもわからないというご意見もたくさん聞きました。そこでお願いですが、鳥取県で漫画を利用した県政広報をやっておられると思います。除雪であったり熱中症であったり、ぜひとも公共交通を元気なうちに利用しましょう。免許返納してからでは遅いと思っています、免許を返納する前に、公共交通の乗り方を覚える。私たちのところはAIデマンドを使ってタクシーのように地域まで来ますけれども、使い方がわからないと言ったご意見もたくさんあります。私どももできるだけ説明に参りたいと思いますが、まずは、免許を持っているときから公共交通を使おうという県民運動を広げていただきたいと思っています。そのことがひいては地域の医療であったり、地域の買い物であったり、そういうものを守っていく、暮らしを守っていくことに繋がるだろうと思っています。

訪問看護ステーションが触れられていましたが、現実に非常に人材不足であり小規模化。24時間対応とうたいながらなかなか対応できないという現実がございます。また癌であったり、在宅医療はまだまだこれからも進んでいくと思いますので、そういうところを支える訪問看護ステーション力というものをしっかりとつけていくようなご支援をお願いしたいと思っています。

3点目の政治の問題につきましては、今年の成人式で、僕は町長選に将来立候補すると言う若者がいました。そういう若者たちの政治に対する志向、これは南部町がこれまでまちづくりに対しての子供たちへの教育をした成果だと、自分で自分を褒めていますけれども、そのような気持ちになっています。しかし一方で、今回の統一地方選で、ご近所の80代のご婦人は、選挙に行かんでもいいか町長と言われました。竹口町長が言われましたように、南部町から県議会議員が出なかったということもあるかもしれませんし、一定の高齢者になったからもう政治はいいわというような諦め感にも似たようなところもあるように思います。若者と高齢者いろいろな課題があると思いますが、重要な課題だと思いますので、原因を追究しながら、民主主義の醸成というものを努めていかなければならない重要な課題であろうと認識します。

(森安伯耆町長)

医療費、小児医療費の無償化については賛同いたします。ただ、複数の方が言っておられた危惧は恐らくあると思うので、制度をスタートされた時点で、先行される自治体で、都道府県単位ですけども、医療に対する負荷をかけすぎないようにリスク回避をどのようにされたかについて研究していただけたらと思います。小児科が少ないので、集中しやすいのはどうかと思います。私としては、開始の時期を決めていただいて、一斉スタートを目指していますということをお願いして、市町村単位の合意形成ですとか、事務手続きの準備に至急かかってくださいというところまで言い切っていただいた方が、やりやすい、力強いと思います。

産後ケアは、基準価格というか目安価格みたいなものを出していただかないとやりにくいという状況があるので、ぜひお願いします。

買物については、町内にも該当店舗がありますが、西部農協が7月まで状況を見てということをお願いしていらっしゃるので、その様子を待つということにしております。町内で、あまり大きな不安が盛り上がっているという状況ではなくて、もし閉鎖されたとすると、その後の利用がどうなっていくのかというようなことに興味を示されるような声を聞くことが多くあります。町としては、しばらく待ちということです。

最後に選挙ですが、これも関心事項ですが、首長の立場で言うと、なり手不足というのは徐々に大変になってきた、深刻化しつつあるというのは感じます。特に町村の議会議員になり手不足について危惧が出てきつつある。急遽具体化して、議会の機能がどうなるのかと心配される方もおそらくある

だろうと思います。そういうところから、投票する価値みたいなものが理解されるように、今の選挙制度も含めて問題点を洗い出していくことは必要でしょうし、この提案の中にあるように、大切な1票を守るための選挙制度の問題点の整理、見える化を、これは町村議会というよりも、県議会の区割りなどのところに行くのかもしれませんが、見える化をしていくということを、手順としては踏んでいただけたらと思います。

(中村日南町長)

小児科の関連ですけれども、基本的には私も賛成したいと思っておりますので、進めていただければと思っております。日野郡では医師不足が大きな課題の一つでありまして、小児科医が不足しております。現状で申し上げますと、日野病院で週3日、日南病院で週2日ということですので、何とか日野郡内では現時点での体制は維持していると思っておりますが、今後のあり方として、3町共同での雇用の検討を進めていただいております、医大と最終段階の詰めというような認識を持っております。医師の共有という形になりますので、それに付随した電子カルテだとか、そういったところの取扱いについてもこれから連携を進めていきたいと思っております。日南病院では整形外科医も週1日ということでありまして、住民の皆さんから、高齢者が多いということもあって、何とか増やして欲しいというような要望をいただいております。大学とも相談をさせていただいておりますが、ドクターの働き方改革が加わっていく中でより厳しいと思っておりますが、大学へのお願い事項はこれからも進めていきたいと思っております。

公共交通の関連ですが、エリアが広いということもありまして現時点では、デマンドバスを運行しているのですが、昨年の10月からはドアツードア化、自宅に近いところで降ろしていくというような動きをしていますので、検証していきたいと思っております。道路網によりまして狭いところもあるので、これから小型化も含めて検討していきたいと思っております。

選挙の関連でございます。今回の統一地方選挙で町議会の方が定数に対して10人ということで、無投票でありました。住民の声から聞きますと、みんなで選んだ人で町政運営をしてもらいたいとか、予算の決議をしてもらいたいというような声をいただいていると思っておりますが、いずれにしても仕組みも含めて再考する時期と思っております。今回県の方でこうした研究会を立ち上げられるという提案をいただいておりますので、ぜひ私どもとしても、或いは町民としても、参画をさせていただいているような課題研究を進めながら、解決に向けての一步に繋がればいいと思っております。

(埜田日野町長)

小児医療の無償化について、日野町は令和4年、昨年の7月から18歳以下の子供の医療費を無償化しております。子育てされている保護者の方に非常に評判が良いということで評価していただいております。ぜひ、全市町村あげて取り組めるようにご配慮をお願いしたいと思います。そして先ほど日南町長が言われましたが、小児科医、さらには中山間地域の医療提供体制の維持につきましては、殊に日野郡3町は連携して、3町にある医療機関とも連携し、さらには大学の附属病院とも連携しながら、いろんな工夫をさせていただいております。ぜひ県の方からもお知恵をいただきたいと思えます。特に小児科医にあっては、子育て環境の確保、子育て支援の要になる部分です。地域に小児科医がおられない、内科医しかおられないということになると、小児科医は子供さんの総合診療医でもありますので、子供の数が少なくても地域に小児科医がちゃんとおられるという部分に対してのご配慮、ご支援をお願いしたいと思います。

買物支援ですが、移動販売の関係で県の支援制度を利用させていただいております。移動販売の中で店舗販売も非常に大切な機能です。店舗機能が、従前されていた事業者が薄利の中だましだまし施設とか設備を長持ちさせておられる、そういったものが随分くたびれてきています。移動販売を守るためには、そういった中継基地であるとか、ストックヤード機能を持つ店舗販売を支援しないといけ

ないという状況です。地域の買物機能維持に向けた環境確保支援の中でご検討いただきたいし、ご支援いただきたいと思います。

生活基盤の確保という面では、道路も非常に大切なところですが、先般、日野郡3町で、高規格道路、江府三次線の整備促進ということで、要望書を出させていただきました。江府三好線の道路、わけても日野町内と江府を結ぶ路線が調査区間になっていますが、なかなか着手していただけていない状況でございます。これを何とか調査を開始していただいて、早く整備をしていただきたい。さらには、そういった計画区間になっていないところも格上げしていただいて、一刻も早く江府三次線が全線開通するようにお願いしたいと思います。

選挙の関係でございますが、投票率然り、なり手不足然りで、県が提案されているものは本当に大切だと思います。私どもの町議会は定数内で終わるんじゃないか、選挙がないんじゃないかという状況の中で、ご高齢の方が男気を出されて、よし選挙にするぞというようなことがございました。若い方、そして女性の方の立候補、投票率は意外と若い方も高い状況ですけれども、政治参加意識を高めていく、投票環境を整えていく、これは本当に大切なことだと思いますので、ぜひ研究会を発足し取り組んでいただきたいと思います。

(八幡江府副町長)

江府町からは2点お話申し上げたいと思います。

1点目は、日南町長、日野町長もお触れになりました医療人材の確保についてです。日野郡3町で、令和2年3月に県の仲立ちをいただきまして、鳥大病院との間で協定を結ばせていただいております。地域医療の安定提供、医療従事者の育成確保といった内容で、あくまでも基本的な方針を共有していたという段階にとどまるものでございまして、具体的な実施はこれからという時に、コロナに巻き込まれてなかなか思うに任せなかったというところです。この度、環境も改善して参りましたので、議論を始めようかというふうになってきたところに、今回のご提案でございまして、非常に勇気をいただいたところです。至急に関係の皆様とご相談いたしまして、形にまとめて参りたいと思います。

もう1点は、投票率の話であります。こちら投票率の低下に危機感を抱いております。直接投票率には結びつかないですけれども、若い方々に向けて、地域や地方自治に向かって関心を持っていただくための取り組みというのを県の仲立ちをいただきまして、日野郡3町で若手職員による活動を始めているところです。今年の2月に第1回目のイベント、青年の主張のようなものですが、29歳以下の方々を対象に、地域の自慢をお互いに表現し合うというようなイベントを始めたところです。できることからやってみようという気持ちで取り組んでおりまして、今後も温かく成り行きを見守っていただければと思います。

(司会：長岡令和新時代創造本部長)

ここまでの市町村長からの御意見を踏まえまして、平井知事からご発言をお願いします。

(平井知事)

大変に限られた時間の中でありましたが濃密な議論をしていただき、本音のお話もいろいろといただきまして感謝を申し上げます。時間も限られていますので、ちょっと乱暴にも見えるかもしれませんが、若干の取りまとめをさせていただきながら、皆様の最後のご確認をいただきたいと思っております。

まず小児医療費の無償化については、それぞれからご意見をいただきました。皆さん基本的には賛同されるということがございました。手嶋町長のお話もございましたが、この問題はやはり全市町村まとまってやりたいということもあります。そういう意味で、まとまれるのであればということで今日皆様にもお諮りをさせていただいたところでございます。ただ色々不安の点がある。それはコンビニ受診

のこととか、或いは小児科の確保のことだとか、伊達市長などでもお話がありましたが他のスポーツ保険との絡み合いなど、解決しなければいけない課題も同時にあるということです。

全国でも同じような課題がいろいろと指摘されますが、地域間格差が生まれることは非常に困るという意識もあるわけです。ですから、ご理解をいただきながら、例えば小児科の医師をどう確保していくのか、或いはコンビニ受診をどういうふうになくしていくのか。また他の制度、スポーツ保険をはじめとしたものとの優先順位を我々の方でもきちんとつけさせていただいて、住民の皆さんの理解を得ていく必要がある。それから、システムにどうしても響くので、お金の問題もあります。

私も県でも汗をかかせていただきたいと思いますし、調整させていただきたいと思います。片方で、森安町長のお話のようなことはいろいろ聞こえてきていまして、やるならば一斉に話をしなければいけない。議会をまとめなければいけませんし、地域の医療機関だとか整えていかなければなりません。それで今日、皆様にもこういう形でお諮りをしたのですが、いろんな条件がまだ残っていることを認識した上で、手嶋町長にご了解いただけるかどうかということなのですが。わかったとは言いにくけれども、ぜひいただいても結構ですが。ありがとうございます。いろいろと苦渋のご判断だと思いますので、今日これを取りまとめさせていただいて、なお調整をさせていただきたいと思います。

保育士についてもやはり無償化問題があるのですが、事前に調査をいたしましたら、まだまだ温度差がありますので、調整を継続して図らせていただき、皆さんがそろそろ範囲内というものを県としても見極めていきたい、ご協力を仰ぐようにしていきたいと思います。

また産後ケアについては基準づくりの課題があるということで、これも市町村でお困りのようであります。皆さんの調整を図らせていただき、すでに東部だとか一定の基準ができているところもあります、できていないところもあるということでありますので、調整を図りたいと思います。

交付金について額の問題や使い勝手の話がございました。検討させていただきたいというのが結論ですが、同じ議論を国に対してやって参りました。国もこれからまだ子育てを広げていこうと、地方の単独事業もあるという認識は、松本大臣もおっしゃっていました。後押しするというお話まで出てきています。新しい国の財源確保が出てくるかもしれません。この辺を見極めながら、新年度になるかもしれませんが、6年度に向けて検討させていただいてはどうかと思います。

英語についてもお話がありましたが、昨日のニュースが非常にショッキングでございまして、島根県がドベを引いたのですが、うちもめでたくブービーということでございまして、片方で鳥取県は希望がありますのはALTの数は全国第2位なんです。ポテンシャルはあるので、やる気を出せばできるのかもしれない。教育委員会との関係は私も同じく首長として非常に微妙ではありますが、ただ我々首長同士でも、やはりこれはやるべきものだという共通認識を持った上で、工夫を取り組んでみてはどうかと思います。

それから買い物については皆様の方で計画を立てたりしておられる。それを後押ししていくことをお約束申し上げたいと思います。その上でいろいろとバリエーションがある。また出した後も柔軟性を持ってというのはその通りだと思いますので、そのように取り扱いをさせていただきます。また埴田町長のお話がありましたが、すでに他の関係で買い物支援をやってこられているところも含めて、県の支援対象にしていくべきだと思います。原案の説明とは違いますが、今日のお話を踏まえて、そのようにさせていただきます。

また江府三次道路の問題については、ぜひ調査を進めさせていただきます。

政治参加については、取り急ぎは研究してみようというところは一致できるのかなと思いますので、研究を開始させていただき、市町村だけにこの話を投げようとは思いません。県も応分の責任を持って、この問題に取り組ませていただきたいと思います。それは金銭面も含めてという趣旨であります。ぜひ、この機会に鳥取県からもう一度投票率なり、或いはなり手不足の問題を、逆回転させて一つのコミュニティのよさを、鳥取から実証してみたいと思います。

いろいろとご協力をいただきながらお話をさせていただきました。非常に難しい局面であるわけですが、ぜひ、今日のように話し合いをさせていただいたり、話し足りないということであれば個別に協議もさせていただきますので、遠慮なくおっしゃっていただければと思います。竹口町長のご懸念もございましたので、次回は逆回転させてみたほうがいいのかなどもと思いますが、いずれにせよ今後も効率良い審議をしながらですね、みんなで19の市町村ならまとまれますので、こういう機会をまた持たせていただきたいと思います。どうかよろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

3 閉会

(司会：長岡令和新時代創造本部長)

最後に閉会の御挨拶を町村会長であります宮脇湯梨浜町長にお願いします。

(宮脇町村会長(湯梨浜町長))

本日は子育て、買物支援、地域のこと、選挙のこと、今日的な課題或いは長期的に生まれてきた課題等に対するご提案を、市町村の意見をよく聞きながら拾っていただいて、たくさんの提案をいただいたことをありがたく思っております。これからみんなで一致団結して、「とっとり最高さあ行こう」で頑張って参りたいと思います。本日はありがとうございました。